18

水戸日建工科専門学校 2年 横山 新希、寺門 絢菜 みとかん ~水戸に新たな風景を~





00. コンセプト

水戸駅周辺は自然豊かなマチであり、都市開発 が積極的に行われている区域だ。また、暮らしと 観光の調和がとれているマチだと私たちは思う。 しかし、水戸駅北口前の正面空間は現在も空地と なっており、マチのイメージダウンにも繋がる。

そこで私たちは「みとかん」という3つの指針の もと多くの人の通過動線・滞留空間となり、 水戸駅北口前の新たな顔としてこの先も賑わい 続ける場を目指し、この計画を提案する。

みとかんの具体的指針



利用者が主体的に、イベントやマルシェの企画・運営を行い、 それぞれが考えた意見を発信・発言できる場。 地域の声だけではなく、県内外の意見や見方を 地域の声だけではなく、県内外の意見や見方を柔軟に 取り入れ、地域活性化の第一歩を図る。

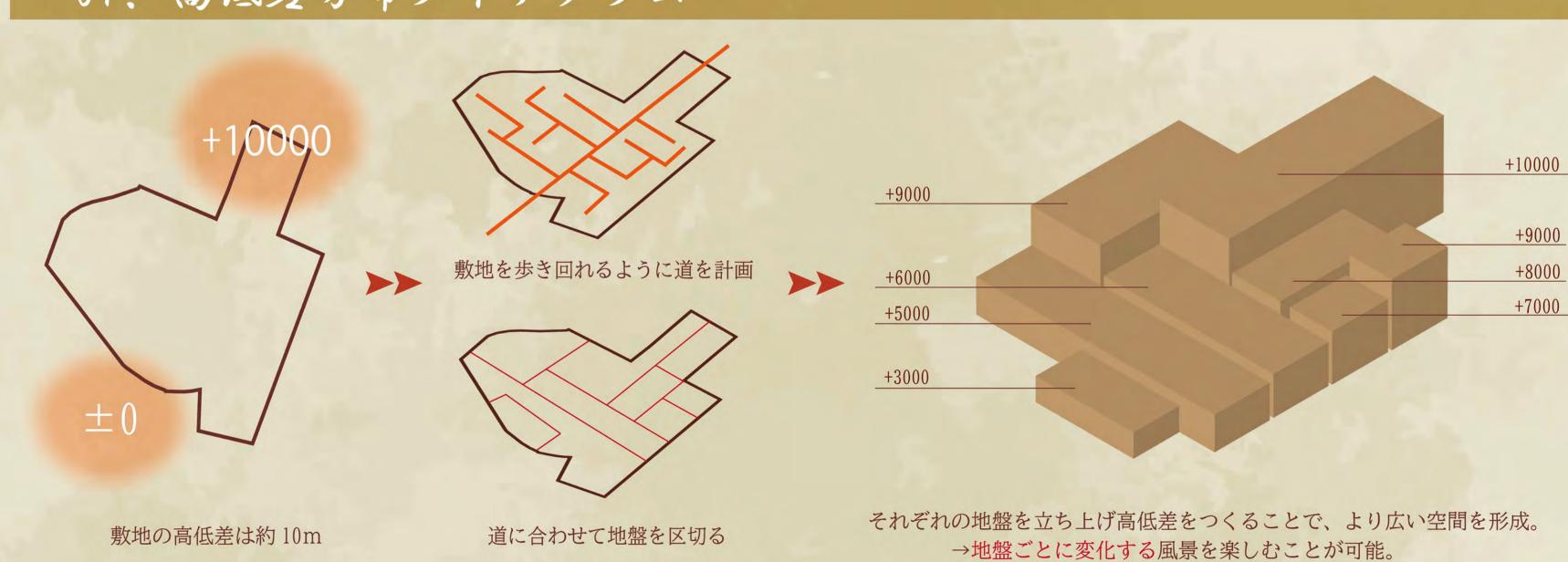


駅前で多くの人が集い、歴史がある土地だからこそできる、 高低差や白壁を基調とした景観づくり、時代にあった用途を 生かし水戸らしい城下町を<mark>感じる</mark>場。



この施設を通して水戸の歴史や文化に触れて関心をもち、 今まで見えてこなかった水戸のイメージや新たな発見を

01、高低差分布ダイアグラム



02、敷地の現状



敷地案内図

住所: 茨城県水戸市三の丸一丁目1 水戸駅前三の丸地区市街地再開発事業区域





多くの人が利用する水戸駅北口前の本計画地は 現在も空地であり殺伐とした風景が広がっている

03、課題

この計画地が抱える問題点

- ①計画地が位置する三の丸地区は茨城県や水戸市の行政施設、学校群の他、商業ビル、 マンション・ホテル、歴史的資源などが多く存在する地域だが、肝心の 水戸駅北口前の真正面は現在も空地。
- ②三の丸地区には、かつて水戸城が存在し、歴史的な街並みの保存や弘道館や大手門が 復元されるなど歴史のある地域であることは明確だ。しかし、歴史的な街並みの 保存は1部しか進んでおらず、水戸が歴史のあるマチであることが世間に 浸透していない。
- ③設計をするにあたり、水戸駅北口から三の丸方面への歴史的観光資源までのアクセス は良いが最短ルートで通る旧銀杏坂は、急こう配・歩道も狭い・車通りも多いなど 歩行者に優しくない。



現在の旧銀杏坂の様子

05. みとかん MAP



04、提案









■ これからの水戸市の在り方

<これからの水戸>

今まで以上に水戸駅北口前の賑わいと活気をもたらすためには、この計画施設を通して、 水戸市とマチの人を筆頭に盛り上げていく姿勢が水戸市の魅力向上に繋がるのではないかと 私たちは考える。まちづくりを『水戸城下町』に落とし込むことで見えてきたマチの可能性。 この先、浸透していく水戸の文化と歴史に現代的要素を折り込みつつ再編し、

水戸の新たな風景をつくる。

<計画施設の在り方>

『水戸といえばここ!!』と名があがるような数多くの人に幅広く愛される場となってほしい。 そして、この施設をきっかけに近隣の観光地もともに盛り上がっていけるように、 水戸の観光地と調和のとれたコミュニティを築きたい。

06、配置图兼平面图



■ まちづくりのデザイン

<水戸の歴史に惹かれるようなデザインを導入するための工夫として>

城下町

高低差地盤を繋げるための橋 大手門に並ぶ水戸城跡の新たな正門 "水戸学の道"の景観に合わせた塀 かけ方や勾配に変化をつけて景観に抑揚を持たせた屋根

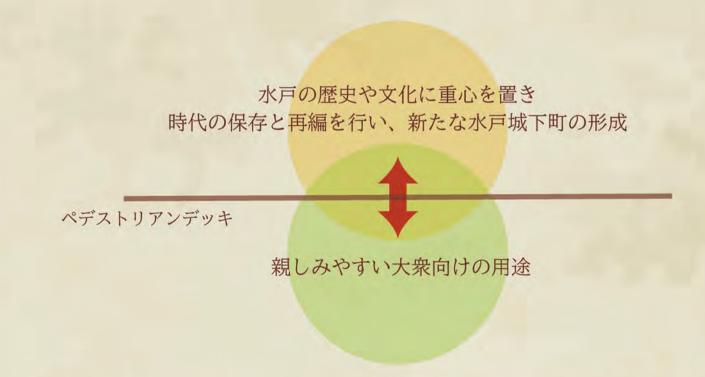
視覚的空間変化のある街並みを表現

ふれあい広場

ふれあい広場を緑化

樹木・植物の蒸散作用による、屋外空間の温度上昇の緩和 1階の熱負荷の抑制に努める。 また、日本料亭下の地盤にはビオトープを配置し癒し効果を図る。

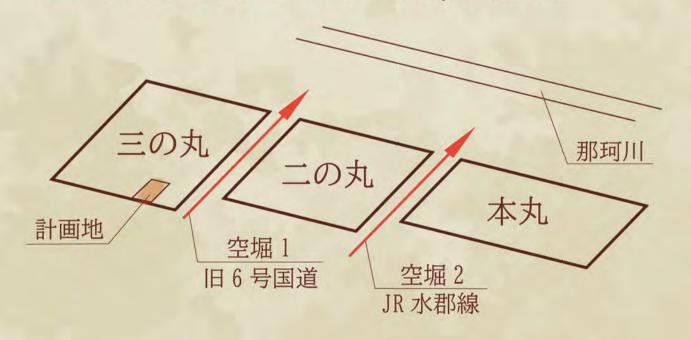
■ ペデストリアンデッキ上下の関係性





橋と門の様子

■ 計画地周辺の今も残る空堀



今も残る水戸城跡の空堀にちなんで、吹き抜けに代わる 長さ約53m、幅約3mの空堀を一棟貸宿場とふれあい広場の間に設けた。

ペデストリアンデッキ下の圧迫感の解消・採光の確保

〈 空堀を生かす案として… 〉

人が入っていきたくなるような小道の先に 隠れ家バーを計画した。空堀に溜まりの空間を 設けることで人の流れを持たせ、ペデストリアンデッキ上との 回遊性を生む。



正面ファサードは全面ガラス張りとし、直売所、コワーキングスペースなど多くの人で 賑わう様子が外からでも見え、歩道からたくさんの人を引き込む。

ペデストリアンデッキ上の和風の建物に合うように柔らかな曲線のルーバーを使用。 木のルーバーにより、日射の抑制と計画地周辺ビルの無機質さを和らげる。



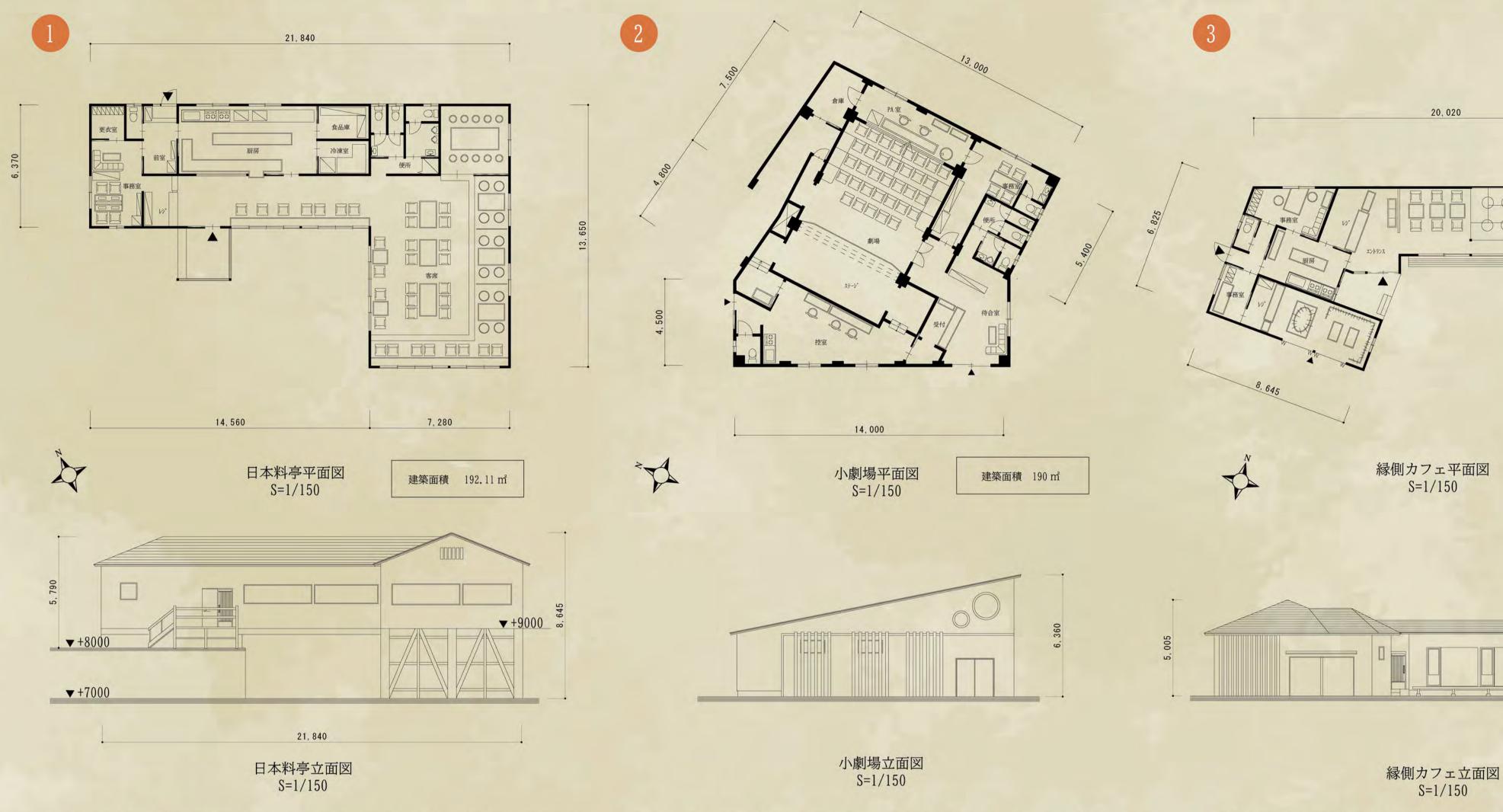
茨城で育った新鮮な食材を販売する直売所を設計する。地元の農家さんと協力しながら 地産地消の仕組みを活用し食文化を通して地域の魅力を広め、特産品のブランド化を 目指す。



水戸駅は通勤通学で多くの人が行きかう場だが、人々が長時間滞在できる場所が少ない。 そこで誰もが利用できるコワーキングスペースを設計する。

大・小会議室、個室の集中スペース、様々なパターンの席があり、間仕切りは本棚と なっているので各々の用途で快適に過ごせる。さらに、小さなカフェも併設している。

07、城下町ゾーン



この施設は3つの地盤レベルに位置する建物で、池の上に建ち、剝き出しの軸組が 映画・芝居・ライブなど、誰でも気軽に利用できるマチの小さな劇場を設計する。 最大の特徴である。地上9mにある南面開口部からはマチの賑わいと高低差の 約40席の客席は天井高を抑え舞台と客席を近距離とすることで有機的な空間を演出。 入り組みを見渡すことができる。



古着屋兼縁側のあるカフェとして、二つの機能を併せ持つ建築物を設計する。 畳の客席の他、縁側に腰かけてお茶を楽しむことができる。確立した庭を配置し、 水戸で過ごすひと時を肌で感じてもらえるような計画とした。

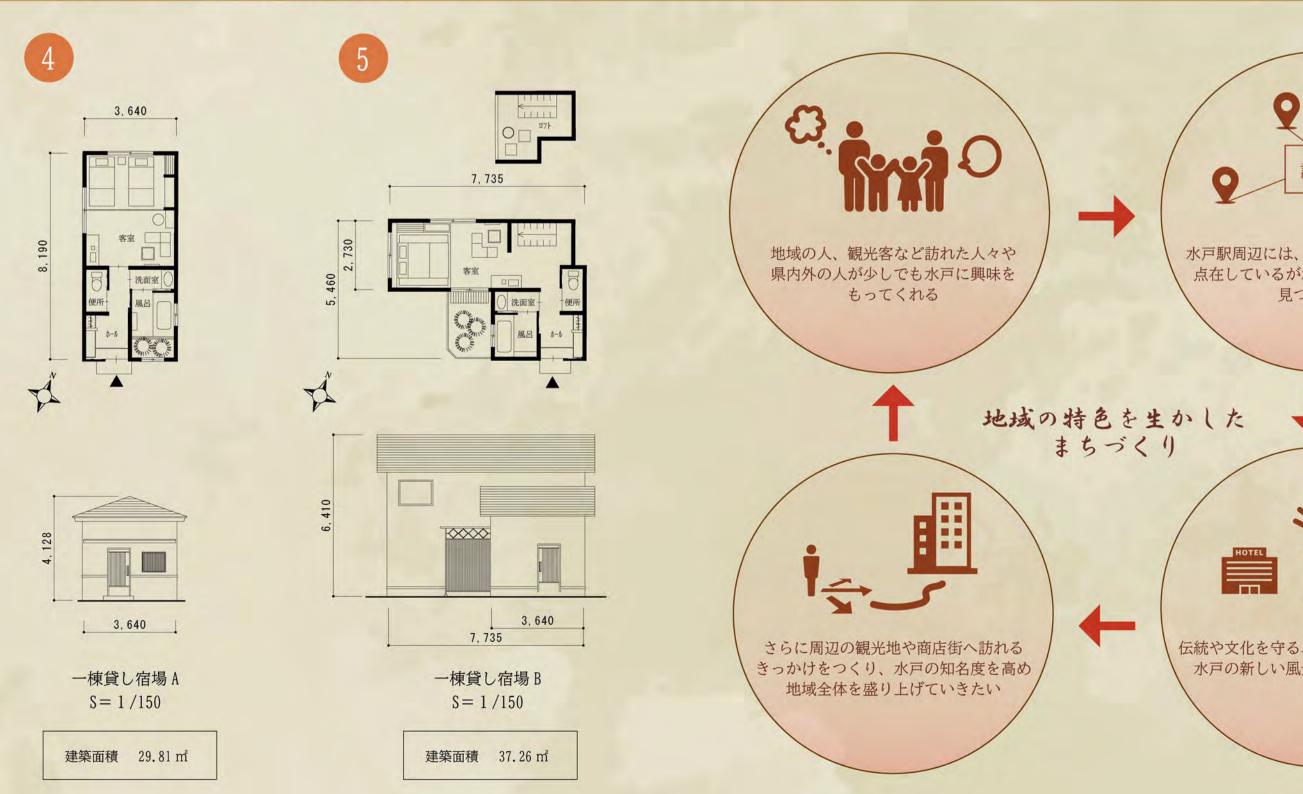


新たな歩道と立ち並ぶ長屋



門から水戸駅方面を向いた眺望

08、一棟貸し宿場ゾーン







宿場は平屋タイプを5棟、ロフトがあるタイプを3棟、計8棟を設計する。 客室は現代スタイルを取り入れ、フローリングと畳張りの小上がりとし、 浴室からは小さな坪庭が見えるようにした。水戸で過ごす1日が特別になるよう、できるように意識して建物はランダムに配置。また、プライバシーを守る為、 宿場の近くには歴史や伝統文化が学べる施設を計画し、料理には水戸の食材を ふんだんに使用したものが提供される。

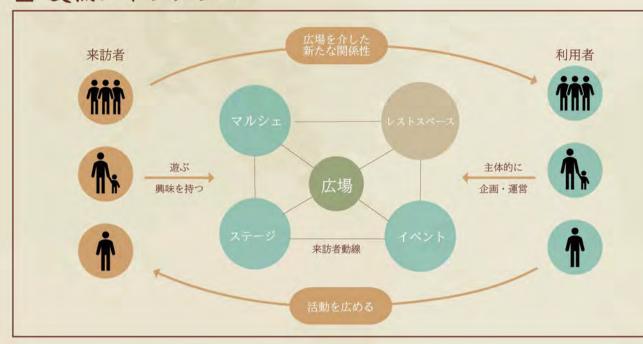


三の丸地区は現在も歴史的な街並みの保存・復元が進められており、水戸城跡通り の白壁をデザインソースとして建物を設計する。つい進みたくなるような小道が 地盤は GL 面から +9000 に設定し周りの塀は約 2.2mとして対策した。 出入口は1つにすることで、宿場利用客以外の通行人が通り抜けができないようにした。

09、ふれあい広場ゾーン

を 車組ホール平面図 S=1/150

■ 交流ダイアグラム

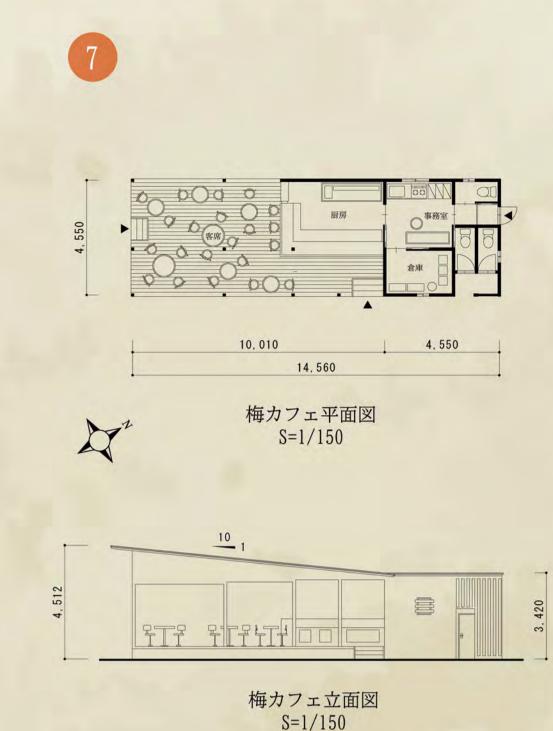




計画地の中心には、移住者・来訪者など世代問わず多くの人が滞留できる空間を設計する。 八角形から成り立つ軸組はトラス構造で支え、中には屋内ステージとレストスペースを配置、 内と外が緩やかに繋がるように側面はガラス張りにした。ふれあい広場は、GL から +3000 と +5000 の地盤に計画することで、ペデストリアンデッキ・歩道から盛り上がる様子が見え、 計画地に訪れるきっかけになる。また、イベントやマルシェが開催でき、世代・性別・国籍に とらわれない新たな関係性が育まれる場として利用される。

・建築面積180.87 m²・最高高さ 5.3 m・屋根勾配 3 寸勾配・軒高 3 m・梁サイズ 120×330・梁スパン 6.1 m

10、文化交流ゾーン



建築面積 108 ㎡

このゾーンには、水戸の文化や工芸品の浸透していない魅力を 発信する為に①水府提灯つくり体験教室、②七面焼つくり体験工房、 ③水戸伝統工芸館、④梅テラスを設計する。

①水府提灯作り体験教室、②七面焼作り体験工房

水府提灯は堅牢性が特徴であり、江戸時代に水戸藩が奨励しておよそ 400年の歴史を持つ。最盛期に比べ水戸市内の生産工房は数少ない。 また、七面焼は水戸藩・徳川斉昭公が藩民の利益創出を目的に 取り組んだ焼物である。しかし、廃藩置県により七面製陶所は閉鎖され 30年余りで途絶えてしまった。

そこで地域の伝統工芸品に実際に触れ、学べる場を人々が集まる地点に 計画することにより、知名度を高め伝統文化の衰退を防ぐ。

③水戸伝統工芸館

その他の工芸品を展示・販売する伝統工芸館を設計する。 現代まで引き継がれてきた大切な文化を現代のスタイルに合わせながら 未来に繋いでいく必要がある。

④梅テラス

眺望のよい GL 面から +10000 の地盤には、水戸の有名な花である梅に ちなんだカフェを設計する。春には大きなテラス席から見える梅や、 マチが賑わう様子を感じることができる。また、斉昭公が愛したという 梅の花を通して広がる会話や食事を楽しむ。

●水府提灯



●七面焼



●年间イベントスケジュール

3月 水戸梅まつり

4月 水戸桜まつり

6月 水戸のあじさいまつり

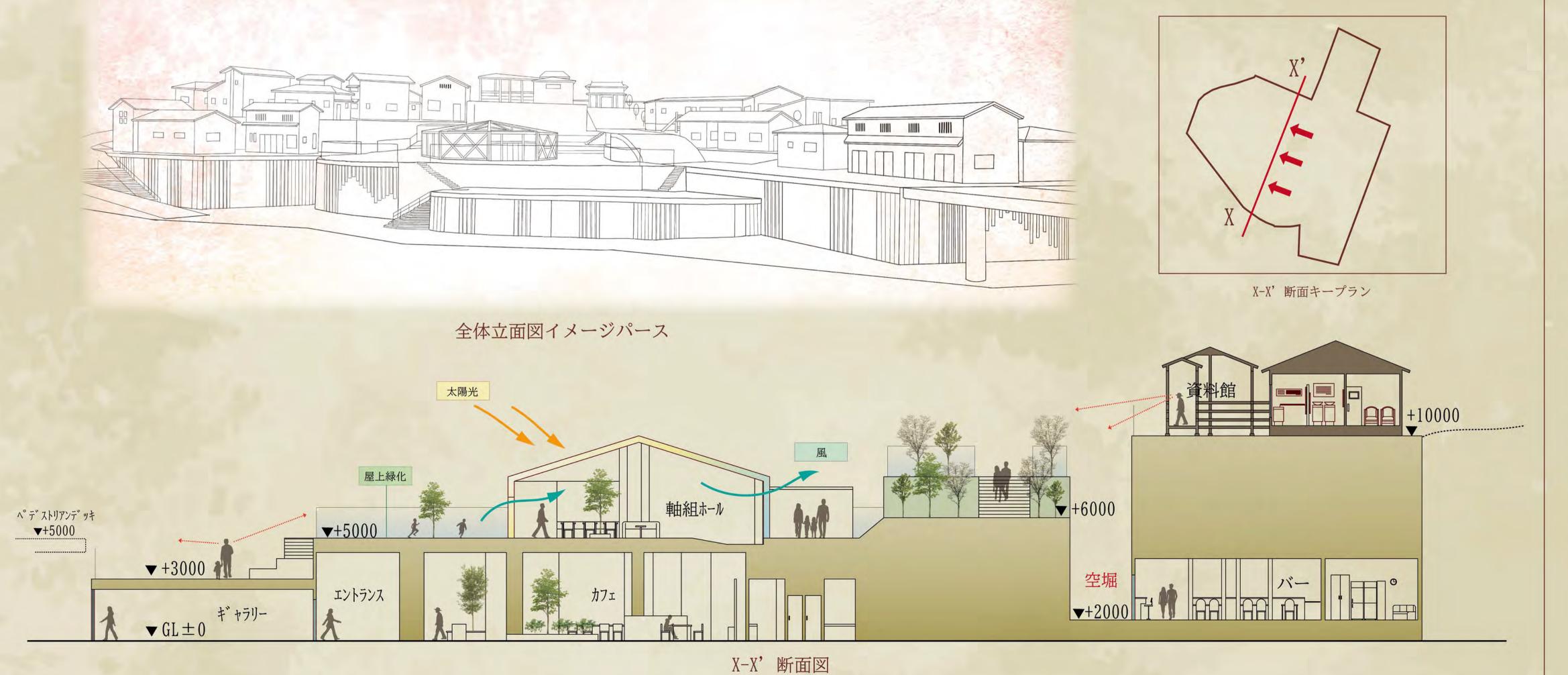
8月 水戸黄門まつり

п .:= 0#± - 1)

9月 水戸の萩まつり

10月 水戸黄門漫遊マラソン など

11、 五·断面图



《面積表》

○ペデストリアンデッキ上 各ゾーン敷地面積 (地上二階 平屋 - 二階建有り)

・城下町ゾーン: 3394.66 ㎡

・宿場ゾーン : 809.30 ㎡

·ふれあい広場ゾーン:1463.33 ㎡

・文化交流ゾーン: 402.87 ㎡

·総敷地面積:6070.16 ㎡

ペデストリアンデッキ下 敷地面積(地上一階)

· 直売所: 332.85 ㎡

・カフェ:369.39 m

・コワーキングスペース:737.89 m

・ギャラリー: 225.06 m

· 半屋外広場: 206.50 ㎡

·総敷地面積:3525.29 ㎡

《建築概要》

·敷地面積:6300 ㎡

·用途地域:商業地域 防火地域

・指定建ペい率:80%

· 指定容積率: 600%

・高さ制限:60m以下

・構造 ペデストリアンデッキ下 - SRC 造 ペデストリアンデッキ上 - 木造 一部 RC 造有

造有

《仕上げ表》

○ペデストリアンデッキ上 外部仕上げ

·屋根 和瓦葺

・外壁 漆喰塗り

・歩道(メインストリート) 御影石張

〇ペデストリアンデッキ下

外部仕上げ

・外壁 ガラスカーテンウォール 木質系ルーバー

内部仕上げ

・内壁 不燃クロス貼り、杉突き板貼り

・天井 アルミ片流れルーバー

・床 磁器質タイル貼り





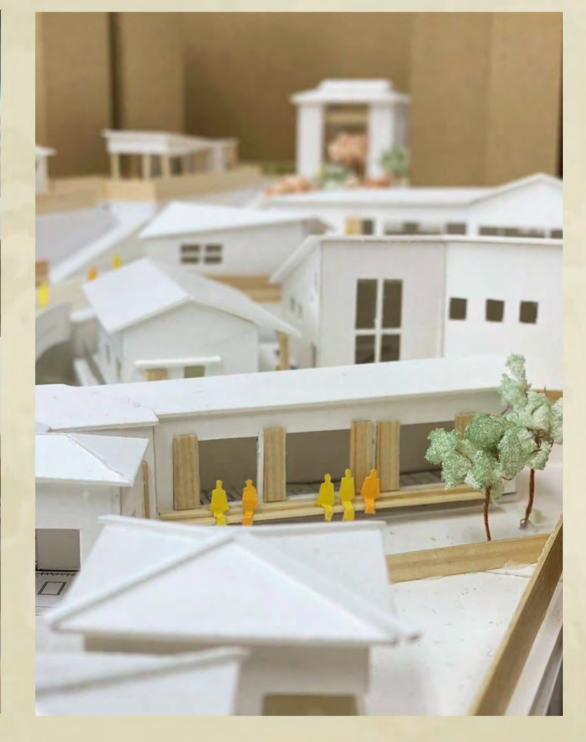






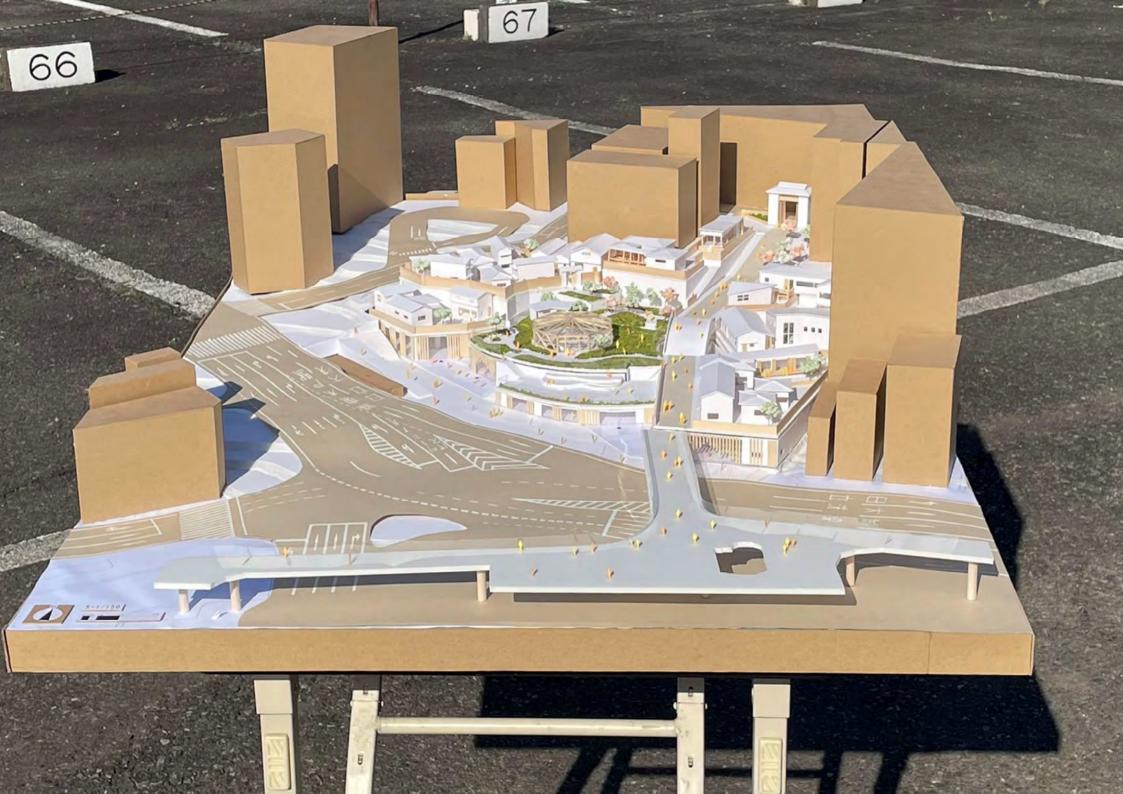


















観光の調和がとれているマチだと私たちは思う。 しかし、水戸駅北口前の正面空間は現在も空地と なっており、マチのイメージダウンにも繋がる。 駅前で多くの人が集い、歴史がある土地だからこそできる、

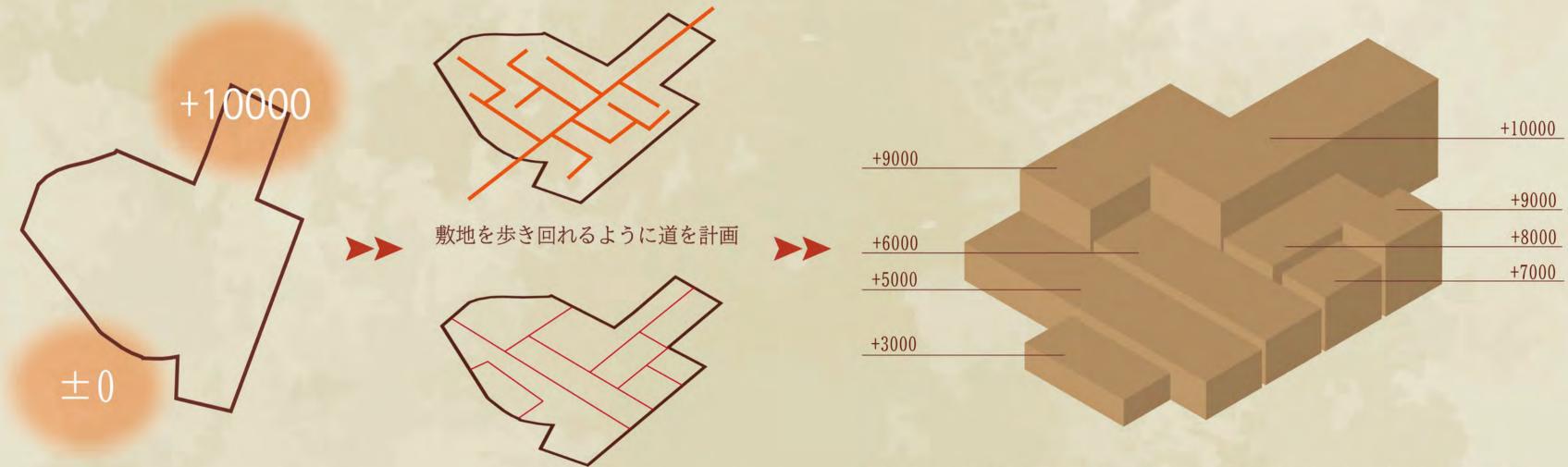
そこで私たちは「みとかん」という3つの指針の もと多くの人の通過動線・滞留空間となり、

みとかんの具体的指針

利用者が主体的に、イベントやマルシェの企画・運営を行い それぞれが考えた意見を発信・発言できる場。 /5 地域の声だけではなく、県内外の意見や見方を柔軟に

高低差や白壁を基調とした景観づくり、時代にあった用途を 生かし水戸らしい城下町を感じる場。

この施設を通して水戸の歴史や文化に触れて<mark>関心をもち、</mark> 今まで見えてこなかった水戸のイメージや新たな発見を



→地盤ごとに変化する風景を楽しむことが可能。

コワーキングスペース 4 5 一棟貸し宿場

配置図兼地上2階平面図(ペデストリアンデッキ上)

ペデストリアンデッキ

<水戸の歴史に惹かれるようなデザインを導入するための工夫として>

高低差地盤を繋げるための橋 大手門に並ぶ水戸城跡の新たな正門 "水戸学の道"の景観に合わせた塀 かけ方や勾配に変化をつけて景観に抑揚を持たせた屋根 視覚的空間変化のある街並みを表現

ふれあい広場を緑化 樹木・植物の蒸散作用による、屋外空間の温度上昇の緩和 また、日本料亭下の地盤にはビオトープを配置し癒し効果を図る。

ふれあい広場

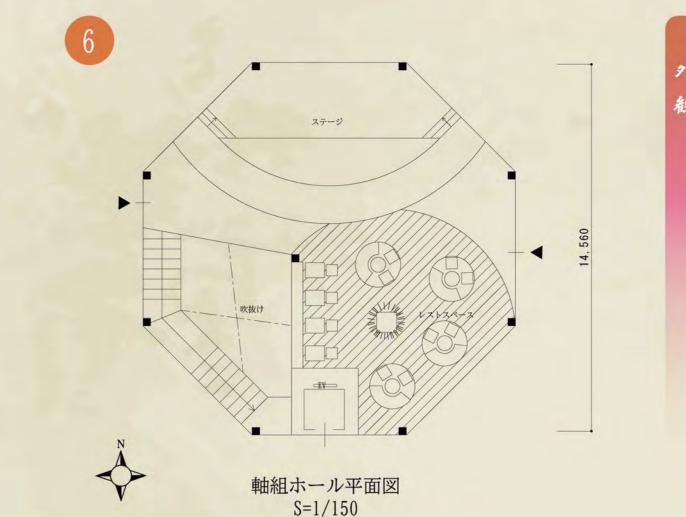
今も残る水戸城跡の空堀にちなんで、吹き抜けに代わる

長さ約53m、幅約3mの空堀を一棟貸宿場とふれあい広場の間に設けた。

■ 計画地周辺の今も残る空堀

〈 空堀を生かす案として… 〉 人が入っていきたくなるような小道の先に 隠れ家バーを計画した。空堀に溜まりの空間を けることで人の流れを持たせ、ペデストリアンデッキ上との 回遊性を生む。

09、ふれあい広場ゾーン



正面ファサードは全面ガラス張りとし、直売所、コワーキングスペースなど多くの人で ■ 交流ダイアグラム 計画地の中心には、移住者・来訪者など世代問わず多くの人が滞留できる空間を設計する。 八角形から成り立つ軸組はトラス構造で支え、中には屋内ステージとレストスペースを配置、 木のルーバーにより、日射の抑制と計画地周辺ビルの無機質さを和らげる。 内と外が緩やかに繋がるように側面はガラス張りにした。ふれあい広場は、GL から +3000 と +5000 の地盤に計画することで、ペデストリアンデッキ・歩道から盛り上がる様子が見え、 計画地に訪れるきっかけになる。また、イベントやマルシェが開催でき、世代・性別・国籍に とらわれない新たな関係性が育まれる場として利用される。

11、五·断面图



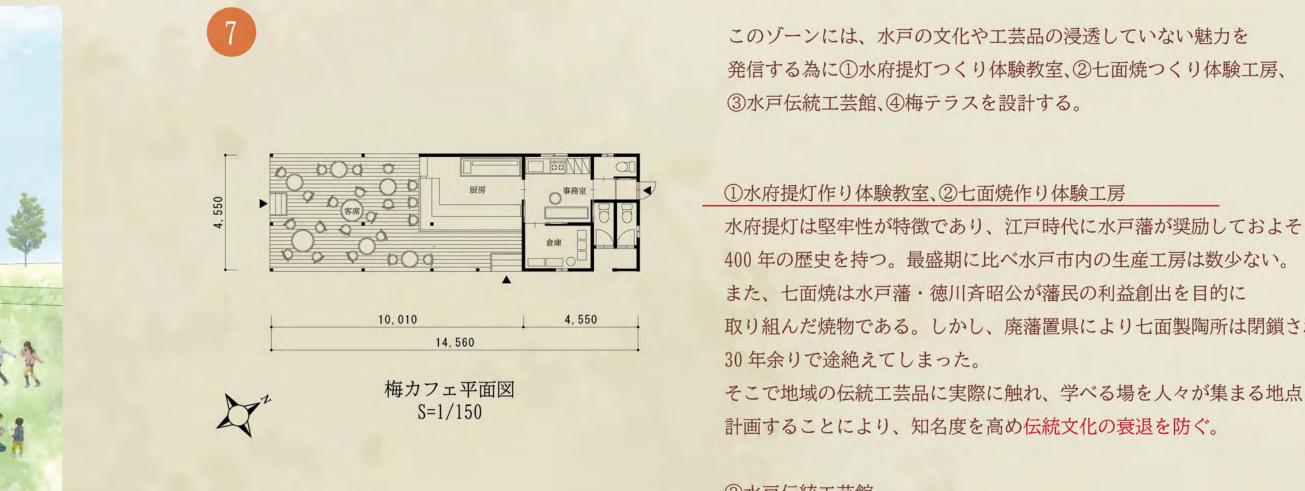
賑わう様子が外からでも見え、歩道からたくさんの人を引き込む。

也産地消の仕組みを活用し食文化を通して地域の魅力を広め、特産品のブランド化を



そこで誰もが利用できるコワーキングスペースを設計する。 大・小会議室、個室の集中スペース、様々なパターンの席があり、間仕切りは本棚と なっているので各々の用途で快適に過ごせる。さらに、小さなカフェも併設している。

10、文化交流ゾーン



未来に繋いでいく必要がある。

梅の花を通して広がる会話や食事を楽しむ。

発信する為に①水府提灯つくり体験教室、②七面焼つくり体験工房、 ③水戸伝統工芸館、④梅テラスを設計する。 ①水府提灯作り体験教室、②七面焼作り体験工房 水府提灯は堅牢性が特徴であり、江戸時代に水戸藩が奨励してお

400年の歴史を持つ。最盛期に比べ水戸市内の生産工房は数少な また、七面焼は水戸藩・徳川斉昭公が藩民の利益創出を目的に 取り組んだ焼物である。しかし、廃藩置県により七面製陶所は閉鎖され 30年余りで途絶えてしまった。 そこで地域の伝統工芸品に実際に触れ、学べる場を人々が集まる地点に

計画することにより、知名度を高め伝統文化の衰退を防ぐ。

その他の工芸品を展示・販売する伝統工芸館を設計する。

眺望のよい GL 面から +10000 の地盤には、水戸の有名な花である梅 ちなんだカフェを設計する。春には大きなテラス席から見える梅や マチが賑わう様子を感じることができる。また、斉昭公が愛したと 9月 水戸の萩まつり



· 建築面積 180.87 m · 最高高さ 5.3m · 屋根勾配 3 寸勾配

・軒高 3m ・梁サイズ 120×330 ・梁スパン 6.1m

(地上二階 平屋 - 二階建有り)

●年间イベントスケジュール

10月 水戸黄門漫遊マラソン など

·宿場ゾーン: 809.30 ㎡ ·ふれあい広場ゾーン:1463.33 ㎡ ・外壁 ガラスカーテンウォール

·直売所: 332.85 ㎡ ・カフェ:369.39 m ・コワーキングスペース:737.89 m · 半屋外広場: 206.50 ㎡ ·総敷地面積:3525.29 ㎡

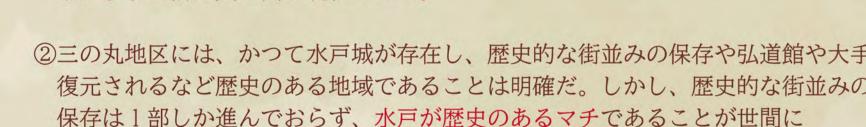
・床 磁器質タイル貼り ·敷地面積:6300 ㎡

·用途地域:商業地域 防火地域 ・指定建ペい率:80% ·指定容積率:600% ・高さ制限:60m以下 ・構造 ペデストリアンデッキ下 - SRC 造 ペデストリアンデッキ上 - 木造 一部 RC 造有

02、敷地の現状



水戸駅前三の丸地区市街地再開発事業区域



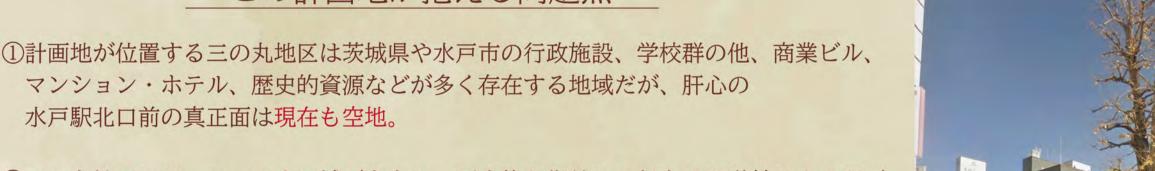
③設計をするにあたり、水戸駅北口から三の丸方面への歴史的観光資源までのアクセス は良いが最短ルートで通る旧銀杏坂は、急こう配・歩道も狭い・車通りも多いなど 歩行者に優しくない。



05. みとかん MAP

敷地の高低差は約 10 m









今まで以上に水戸駅北口前の賑わいと活気をもたらすためには、この計画施設を通して、 水戸市とマチの人を筆頭に盛り上げていく姿勢が水戸市の魅力向上に繋がるのではないかと 私たちは考える。まちづくりを『水戸城下町』に落とし込むことで見えてきたマチの可能性。 この先、浸透していく水戸の文化と歴史に現代的要素を折り込みつつ再編し、 水戸の新たな風景をつくる。

そして、この施設をきっかけに近隣の観光地もともに盛り上がっていけるように、 水戸の観光地と調和のとれたコミュニティを築きたい。

07、城下町ゾーン

08、一棟貸し宿場ゾーン

一棟貸し宿場 B S=1/150

建築面積 37.26 m²

3, 640

一棟貸し宿場 A S=1/150 建築面積 29.81 ㎡



地域の特色を生かしたまちづくり

地域の人、観光客など訪れた人々や 県内外の人が少しでも水戸に興味を もってくれる

さらに周辺の観光地や商店街へ訪れる きっかけをつくり、水戸の知名度を高め 地域全体を盛り上げていきたい

伝統や文化を守る為に、周りと差別化した 水戸の新しい風景である一棟貸し宿場

水戸で過ごすひと時を肌で感じてもらえるような計画とした。

ふんだんに使用したものが提供される。

新たな歩道と立ち並ぶ長屋



の白壁をデザインソースとして建物を設計する。つい進みたくなるような小道が 浴室からは小さな坪庭が見えるようにした。水戸で過ごす1日が特別になるよう、できるように意識して建物はランダムに配置。また、プライバシーを守る為、 宿場の近くには歴史や伝統文化が学べる施設を計画し、料理には水戸の食材を 地盤は GL 面から +9000 に設定し周りの塀は約 2.2mとして対策した。 出入口は1つにすることで、宿場利用客以外の通行人が通り抜けができないようにした。











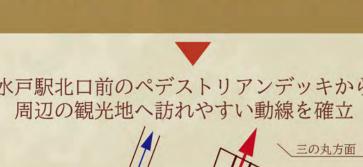




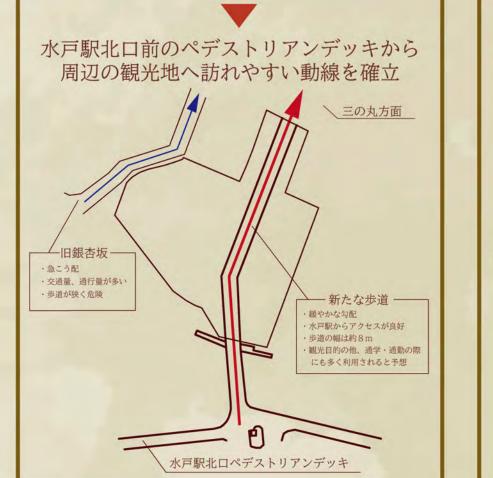


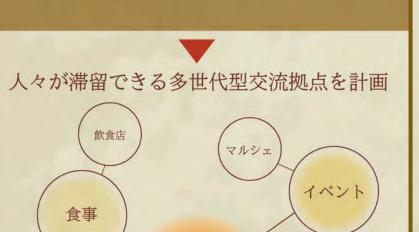
04、提案





上方面への新たな歩道の開設







■これからの水戸市の在り方

<これからの水戸>

『水戸といえばここ!!』と名があがるような数多くの人に幅広く愛される場となってほしい。